

令和5年度 第2回 貸出文庫選定作品
予約受付開始：令和6年3月5日（火） 午前9時から

書名	著者	出版者（出版年）	ページ数 / 1ページの行数×文字数
伝言	ナカワキハツエ 中脇初枝	講談社（2023.8）	307p / 18行×42文字程度
		満洲・新京で暮らす、ひろみ。「尽忠報国」「一億玉砕」「五族協和」、そう信じていた—永遠に失われた、もう、どこにもない国。あの場所で見たと、聞いたこと、そして、わたしに託されたことを、わたしは忘れない。『世界の果てのこどもたち（2016年本屋大賞3位）』。には書かれなかったもうひとつの真実。終戦間際の満洲を、圧倒的な事実に基づき描く。	
この夏の星を見る	ツジムラミヅキ 辻村深月	KADOKAWA（2023.6）	483p / 19行×42文字程度
		離れていても、空はひとつ。全国の中高生たちは天文活動を通じてつながっていく。2020年春、コロナ禍で登校や部活動が次々と制限される中、牛国の中高生は複雑な思いを抱えていた。茨城県の高校二年生、亜紗。渋谷区の中学一年生、真宙。長崎県五島列島の旅館の娘、円華。それぞれに天文活動に出会った生徒たちは、オンライン会議を駆使して、全国でつながっていく。望遠鏡で星をつかまえるスピードを競う「スターキャッチコンテスト」開催の次に彼らが狙うのは—。	
語学の天才まで1億光年	タカノヒデユキ 高野秀行	集英社インターナショナル （2022.9）	334p / 20行×45文字程度
		語学は魔法の剣。学んだ言語は25以上の辺境ノンフィクション作家による、超ド級・語学青春記。自身の「言語体験」に基づき、「言語」を深く楽しく考察。自動翻訳時代の語学の意味を問う。語学上達のためのヒントが満載。	
木挽町のあだ討ち	ナガイサヤコ 永井紗耶子	新潮社（2023.1）	267p / 20行×41文字程度
		芝居小屋の立つ木挽町の裏通りで、美少年菊之助は父親を殺めた下男を斬り、みごとに仇討ちを成し遂げた。二年後、ある若侍が大事件の顛末を聞きたいと、木挽町を訪れる。芝居者たちの話から炙り出される、秘められた真相とは…。【第169回直木賞・第36回山本周五郎賞受賞】	
休館日の彼女たち	ヤギエミ 八木詠美	筑摩書房（2023.3）	151p / 15行×38文字程度
		算数で「平行」を習ったときから、ひとには見えない黄色いレインコートに身をつつむことになったホラウチリカ。ある日、大学の恩師から紹介された仕事は古代ローマの女神像のおしゃべり相手だった—。誰もがコミュニケーション不全を抱える世界で、有機物と無機物の境界すら越えて、わたしとヴィーナスは手に手を取り合い駆け出していく。新しい関係性の扉をひらく無敵のシスターフッド小説！！	
酔いどれクライマー 永田東一郎物語	フジワラアキオ 藤原章生	山と溪谷社（2023.2）	381p / 15行×42文字程度
		優れた登山家は、なぜ実社会で「遭難」したのか—。圧倒的な存在感を放ちながら、破天荒に生きた憎めない男の痛快な人物伝。	
かっかどるどるどう	ワカタケチサコ 若竹千佐子	河出書房新社（2023.5）	223p / 14行×36文字程度
		心もとない毎日を送る四人は、引きつけられるように古いアパートの一室を訪れるようになる。そこでは片倉吉野という不思議な女性が、訪れる人たちに食事をふるまっていた—。	

※上記内容説明は「トーハンマーク」から引用

・1タイトルにつき20冊所蔵しています。